

平成28年度

事業報告書
収支計算書

公益財団法人兵庫県科学技術振興財団

目 次

平成28年度 事業報告

I. 法人の概要

- 1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 基金の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 5. 会議
 - (1) 理事会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 評議員選定委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (3) 評議員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 6. 役員改選
 - (1) 平成28年5月30日付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 平成28年6月23日付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

II. 事業の概要

- 1. 研究及び科学技術に関する助成事業（科学技術振興助成金事業）
 - (1) 周知方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 助成金申請受付状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (3) 選考委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (4) 助成金交付件数及び助成額・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (5) 科学技術振興に関する助成金贈呈の会・・・・・・・・ 7
 - (6) 交付対象となった研究概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 2. 特記事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

平成28年度 経理状況

- 貸借対照表（平成29年3月31日現在）・・・・・・・・・・・・ 13
- 正味財産増減計算書（平成28年4月1日～平成29年3月31日）・・・・ 14
- 正味財産増減計算書内訳表（平成28年4月1日～平成29年3月31日）・・・・ 15
- 財務諸表に対する注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 財産目録（平成29年3月31日現在）・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 収支計算書（予算対比）（平成28年4月1日～平成29年3月31日）・・・・ 18

- 監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

平成28年度 事業報告書

I. 法人の概要

1. 目的

兵庫県における科学技術の研究開発を助成し、科学技術に関する知識及び思想の普及並びに啓発に努めることにより、科学技術の発展と科学思想の浸透を図り、もって兵庫県の産業の振興と県民の生活及び福祉の向上に資することを目的とする。

2. 沿革

昭和51年4月17日 設立許可（昭和51年4月17日付兵庫県指令文第1-3号）
基本財産 2億円（出損者：兵庫県）
昭和51年4月26日 設立登記
平成25年4月9日 公益財団法人へ移行登記

3. 基金の状況

基本財産	200,000,000円
出損金受領年月日	昭和51年4月19日
出損者	兵庫県
管理状況	兵庫県縁故債 (契約締結日：平成23年12月20日) 金額 200,000,000円

(注) 出損金はハニー化成(株)が兵庫県に寄附したものの。

4. 役員

平成28年6月23日 登記後

財団役職	氏名	所属・役職名
会長	神門 登	ハニー化成(株) 専務取締役
理事	坂井 幸蔵	(株)アマデラスホールディングス 取締役会長
理事	中前 勝彦	神戸大学 名誉教授
理事	太田 勲	兵庫県立大学 副理事長兼学長
理事	磯貝 武	(有) アイピーアイ 代表取締役
理事	半谷 正裕	住友ゴム工業(株) 知的財産部長
理事	平岡 靖敏	神戸商工会議所 理事・産業部長
監事	内沼 英城	みのり税理士法人 社員 税理士
監事	宮口 美範	兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長

評議員	竹村 英樹	兵庫県産業労働部産業振興局長
評議員	東 成昭	川崎重工業(株) 理事・技術開発本部 知的財産部長
評議員	井上 二三夫	シスメックス(株) 知的財産本部長
評議員	亀岡 誠司	(株)神戸製鋼所 技術開発本部 知的財産部長
評議員	横山 光宏	兵庫県立姫路循環器病センター 名誉院長／参与

会長 1 理事 6 監事 2 評議員 5 (計 14 名)

5. 会議

(1) 理事会の開催

① 日時 平成28年5月20日(金) 16:00～17:00

場所 ハニー化成株式会社 本社2階 応接室

理事会 出席者(順不同・敬称略)

理事	神門 登	ハニー化成株式会社 専務取締役
理事	坂井 幸蔵	株式会社アマデラスホールディングス 取締役会長
理事	中前 勝彦	神戸大学 名誉教授
理事	太田 勲	兵庫県立大学 副学長
理事	磯貝 武	有限会社アイピーアイ 代表取締役
理事	半谷 正裕	住友ゴム工業株式会社 知的財産部長
理事	平岡 靖敏	神戸商工会議所 理事 産業部長
監事	内沼 英城	太陽グラントソントン税理士法人 シニアマネジャー
事務局	水本 公治	公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局

議決事項

(1) 第1号議案 平成27年度事業報告同収支決算(案)について

(2) 第2号議案 評議員選定委員会開催(案)について

(3) 第3号議案 評議員会の招集について

② 日時 平成28年12月7日(水) 13:30～15:00

場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館 2階 セミナー室II

理事会 出席者(順不同・敬称略)

理事	神門 登	ハニー化成株式会社 専務取締役
理事	中前 勝彦	神戸大学 名誉教授
理事	半谷 正裕	住友ゴム工業株式会社 知的財産部長
理事	平岡 靖敏	神戸商工会議所 理事 産業部長

監事 内沼 英城 みのり税理士法人 社員
監事 宮口 美範 兵庫県産業労働部産業振興局新産業課長
事務局 水本 公治 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局

議決事項

- (1) 第1号議案 平成28年度兵庫県科学技術振興助成金 交付（案）について
- (2) 第2号議案 第41回助成金贈呈の会（案）について
- (3) 第3号議案 平成28年度中間事業報告
- (4) 第4号議案 平成28年度第1回補正予算(案)について

- ③ 日時 平成29年3月3日（金） 11：00～12：00
場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館2階 セミナー室Ⅱ

理事会 出席者（順不同・敬称略）

理事 神門 登 ハニー化成株式会社 専務取締役
理事 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授
理事 半谷 正裕 住友ゴム工業株式会社 知的財産部長
理事 平岡 靖敏 神戸商工会議所 理事 産業部長
監事 内沼 英城 みのり税理士法人 社員
監事 宮口 美範 兵庫県産業労働部産業振興局新産業課長
事務局 水本 公治 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局

議決事項

- (1) 第1号議案 平成29年度事業計画・収支予算（案）について
- (2) 評議員選定委員会の開催
 - ① 日時 平成28年 5月30日（月） 16：30～17：00
 - ② 場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館2階 セミナー室Ⅱ

出席者

外部委員

吉岡 秀樹 兵庫県立工業技術センター 次長（技術調整担当）
宮本 要 公益社団法人 兵庫工業会 専務理事

関係委員

井上二三夫 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 評議員
（シスメックス㈱ 研究開発企画本部 副本部長兼知的財産部長）

内沼 英城 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 監事
(太陽グラントソントン税理士法人 シニアマネージャー)
水本 公治 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局員
(（一社）兵庫県発明協会 専務理事)

事務局 神門 登 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 会長
(ハニー化成(株) 専務取締役)
相田 寧子 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局員
(（一社）兵庫県発明協会 主事)

決議事項

(1) 第1号議案 評議員選出の件について

(3) 評議員会の開催

- ① 日時 平成28年 6月23日(木) 16:00～17:00
- ② 場所 兵庫県立工業技術センター 技術交流館2階 セミナー室Ⅱ

評議員会 出席者(順不同・敬称略)

評議員 井上二三夫 シスメックス(株) 研究開発企画本部副本部長兼知的財産部長
評議員 横山 光宏 兵庫県立姫路循環器病センター 名誉院長 病院局参与
評議員 東 成昭 川崎重工業(株) 技術開発本部 理事 知的財産部長

会 長 神門 登 ハニー化成(株) 専務取締役
理 事 坂井 幸蔵 (株)アマデラスホールディングス 取締役会長
理 事 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授
理 事 半谷 正裕 住友ゴム工業(株) 知的財産部長

監 事 内沼 英城 太陽グラントソントン税理士法人 シニアマネージャー
事務局 水本 公治 公益財団法人兵庫県科学技術振興財団 事務局

決議事項

- (1) 第1号議案 平成27年度財務諸表の承認について
- (2) 第2号議案 役員一部改選(案)の承認について
- (3) その他報告事項
 - 1. 平成28年度事業計画同収支予算について

6. 役員改選

(1) 平成28年5月30日付 交代

評議員

竹村正樹 (兵庫県産業労働部 前産業振興局長) 評議員退任
竹村英樹 (兵庫県産業労働部 産業振興局長) 評議員就任
飯塚昌弘 (川崎重工業株式会社 前技術開発本部理事知的財産部長) 評議員退任
東成昭 (川崎重工業株式会社 技術開発本部理事知的財産部長) 評議員就任
任期 4年

(2) 平成28年6月23日付 交代

監事

竹岡嘉彦 (兵庫県産業労働部産業振興局 前新産業課長) 監事退任
宮口美範 (兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長) 監事就任
任期 4年

II. 事業の概要

1. 研究及び科学技術に関する助成事業 (科学技術振興助成金事業)

(1) 周知方法

- ・ 関係団体、県内各商工会議所・商工会・県民局等への案内送付
- ・ ホームページ掲載
- ・ 内部機関紙告知 (兵庫県発明協会 機関紙 IPR)

(2) 助成金申請受付状況

① 受付期間 平成28年7月1日～平成28年9月30日

② 申請件数・金額

一般企業	15件	27,400,000円
研究機関	17件	26,450,000円
合計	32件	53,850,000円

(3) 選考委員会

① 日時 平成28年11月25日(金) 15:00～17:00

会場 兵庫県立工業技術センター 技術交流館2階 セミナー室II

出席者 (順不同・敬称略)

委員 太田 勲 兵庫県立大学 副学長

委員 磯貝 武 (有)アイピーアイ 代表取締役

委員 中前 勝彦 神戸大学 名誉教授

委員 太田 勲 兵庫県立工業技術センター 所長
(代理 吉岡 秀樹 兵庫県立工業技術センター 次長)
委員 中村 俊一 神戸大学大学院医学研究科 教授
委員 宮口 美範 兵庫県産業労働部産業振興局 新産業課長

② 研究開発助成基準

1. 助成対象

本県下の科学技術の振興をはかるため、主たる助成として

A. 研究開発に関する試作試験に対する助成

B. 新技術の実施化資金に対する助成

を対象とする。

ただし、上記以外で財団の事業趣旨に照らし、助成するに値する申請がある場合には、会長の承認を得て、助成することを得る。

2. 選考基準

- イ. 県下の助成を必要とする個人、企業、研究機関で大企業、大規模プロジェクトは含まない。
- ロ. 県下の科学技術の振興に寄与するもの。
- ハ. 新規な学術または技術であること。
- ニ. その計画が申請者において実施可能なものであること。

3. 選考方法

- イ. 申請書、添付資料により審査を行う。
- ロ. 必要に応じて内容聴取、または臨場調査することもある。
- ハ. 選考は次の区分に評価する
 - A・・・助成金の交付が適当である
 - B・・・Aに準じる
 - C・・・助成金の交付は適当でない
- ニ. 助成額は、年度予算を参考に選考委員の総意により、査定する。

(4) 助成金交付件数及び助成額

一般企業	3件	600,000円
研究機関	4件	1,100,000円
合計	7件	1,700,000円

(5) 科学技術振興に関する助成金贈呈の会

前年度助成金受賞者による研究成果発表会後、第41回科学技術振興に関する助成金贈呈の会を行った。

日時 平成29年1月23日(月) 14:00~15:50

場所 生田神社会館 3階 梅の間(神戸市中央区下山手通1-2-1)

参加者 約80名

内容

1. 贈呈の会記念 成果発表会 (14:00~15:30)

2. 助成金贈呈の会 (15:30~15:50)

挨拶 会長 神門 登 氏

審査経過報告 助成金選考委員会委員長 太田 勲 氏

助成金贈呈式



兵庫県科学技術振興助成金 年度別実績

(助成金単位:千円)

年度	回数	一般		学校		機関		合計	
		採用件数	助成金額	採用件数	助成金額	採用件数	助成金額	採用件数	助成金額
昭和 51	第 1回	9	6,330	3	3,050	1	115	13	9,495
昭和 52	第 2回	3	1,650	5	5,100	3	305	11	7,055
昭和 53	第 3回	12	6,600	3	2,400	-	-	15	9,000
昭和 54	第 4回	6	3,600	6	4,200	-	-	12	7,800
昭和 55	第 5回	4	5,000	5	4,000	-	-	9	9,000
昭和 56	第 6回	6	6,000	5	5,000	-	-	11	11,000
昭和 57	第 7回	5	6,400	6	5,600	-	-	11	12,000
昭和 58	第 8回	4	6,800	9	8,200	-	-	13	15,000
昭和 59	第 9回	5	6,000	7	7,400	-	-	12	13,400
昭和 60	第 10回	4	5,000	8	8,300	-	-	12	13,300
昭和 61	第 11回	5	4,000	6	6,000	-	-	11	10,000
昭和 62	第 12回	4	3,700	7	6,300	-	-	11	10,000
昭和 63	第 13回	5	3,600	7	6,400	-	-	12	10,000
平成 1	第 14回	5	3,500	8	6,500	-	-	13	10,000
平成 2	第 15回	2	1,900	9	8,100	-	-	11	10,000
平成 3	第 16回	3	2,800	8	8,400	-	-	11	11,200
平成 4	第 17回	5	4,000	7	6,000	-	-	12	10,000
平成 5	第 18回	3	2,200	6	5,800	-	-	9	8,000
平成 6	第 19回	2	1,300	3	3,700	-	-	5	5,000
平成 7	第 20回	0	0	5	5,000	-	-	5	5,000
平成 8	第 21回	1	550	2	1,450	-	-	3	2,000
平成 9	第 22回	1	500	5	3,500	-	-	6	4,000
平成 10	第 23回	1	800	4	3,200	-	-	5	4,000
平成 11	第 24回	2	1,400	3	2,400	-	-	5	3,800
平成 12	第 25回	1	750	4	3,050	-	-	5	3,800
平成 13	第 26回	1	750	4	3,050	-	-	5	3,800
平成 14	第 27回	1	300	5	3,500	-	-	6	3,800
平成 15	第 28回	0	0	5	3,300	-	-	5	3,300
平成 16	第 29回	0	0	5	2,900	-	-	5	2,900
平成 17	第 30回	1	300	6	3,300	-	-	7	3,600
平成 18	第 31回	5	2,100	3	1,500	-	-	8	3,600
平成 19	第 32回	2	800	3	1,200	-	-	5	2,000
平成 20	第 33回	3	900	3	900	-	-	6	1,800
平成 21	第 34回	4	1,200	3	900	-	-	7	2,100
平成 22	第 35回	4	1,500	2	600	-	-	6	2,100
平成 23	第 36回	6	1,800	5	1,200	-	-	11	3,000
平成 24	第 37回	2	500	4	1,200	-	-	6	1,700
平成 25	第 38回	1	200	6	1,800	-	-	7	2,000
平成 26	第 39回	1	300	4	1,200	-	-	5	1,500
平成 27	第 40回	3	700	3	900	-	-	6	1,600
平成 28	第 41回	3	600	4	1,100	-	-	7	1,700
合計		135	96,330	206	157,600	4	420	345	254,350

(注: 機関助成は昭和52年度で整備完了につき終了)

(6) 交付対象となった研究概要

「アラミド繊維裁断くずから再生品の製造とリサイクルシステムの構築」

アースリサイクル株式会社 代表取締役 立花 孝

強化繊維の製造には大量のエネルギーを消費し使用後は埋立てとなり資源のない日本では憂慮すべき事態に至っております。弊社はガラス繊維強化プラスチック（GFRP）のリサイクルの開発を行い、次にひょうご環境創造協会の研究会で炭素繊維強化プラスチック（CFRP）の開発を行い好結果を得ております。昨年県内のアラミド繊維加工メーカーからリサイクル方法のご相談があり上記と同様の方法でビーカレベル、ベンチレベルでテストを行った結果、再生アラミドの品質もクリアーリサイクル可能と判断されたので今後は①既存機器を改造して工業化レベルに対応できる設計データを収集し、②副産物のポリエステル、ポリスチレン樹脂の用途開発を行い、③最適プロセスの構築と経済性の確認を推進する為に本助成金で補填し来年度に実行します。

助成金額 2.0万円

「軽量化に対応した車載用アルミニウム合金-エンジニアリングプラスチック接合部材の開発と実用化」

株式会社サーテック永田 代表取締役 永田 晋也

現在、自動車などの輸送機器産業では車体の軽量化が最重要課題となっている。鉄鋼製部品を、アルミニウム合金・樹脂製部品に置換する異種材料接合に対する要求が高まっているが、アルミニウム合金表面には不活性な不動態膜が形成されるため、アルミニウム合金と樹脂を接着・接合する際、十分な接合強度が得られないことが課題となっている。

本研究では、主に車載 ECU（Electronic Control Unit）を対象として、アルミニウム合金の表面に、表面処理による陽極電解処理で樹脂との接合性を向上させる層を創製する表面処理技術開発の確立を目指すとともに、環境に配慮した低コスト製造プロセスを確立し、軽量化を実現させ事業化を目指す。

助成金額 2.0万円

「野生動物識別用画像センサーの開発」

マルチ株式会社 代表取締役社長 古林 直泰

鹿や猪、あるいはアライグマ等の外来動物といった野生動物による農作物や林業、希少植物の被害が報じられ、農水省や環境省も多額の対策費を予算化している。当社ではこのような状況に対処する為、超音波や光を使った忌避装置を開発し商品化しているが、忌避効果を高めるためには、カメラを使って、どんな動物が出没しているかを認識することによって忌避装置の作動を的確に制御することが必要であると考えている。

今回の画像センサーは忌避装置と一体化して使うもので、これにより鹿等の野生動物による被害の減少に寄与することができると考えている。

助成金額 2.0万円

「生体質感造形 Bio-Texture Modeling を用いた新しい顎義歯作成法の確立」

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座口腔外科学分野 教授 古森 孝英

口腔癌の手術によって顎骨に大きな欠損が生じ、口腔機能の回復を図る目的でこの欠損部位を補填する顎義歯が装着される。顎義歯は普通の義歯と同様、口腔内で型取りし、石膏による再現モデルを使って作られる。しかし手術後の口腔内は多様な柔らかさが複雑に分布するため一様な硬さの石膏モデルでは再現性が低く、適合の良い顎義歯を作ることは難しい。

近年、医療画像の処理能力と 3D プリンターの発展によって、組織の柔らかさも再現した患者個別の臓器モデルを造る技術：生体質感造形 Bio-Texture Modeling が開発された。本研究ではこの新技術を用い、CT 等の画像情報から実際の質感を再現した口腔内モデルを作り、質の高い顎義歯作成が可能であることを示したい。

助成金額 30万円

「竹バイオマスを利用する水素生成多機能ボイラー試作機の完成」

兵庫県立篠山東雲高等学校 教諭 菊川 裕幸

放置・拡大が問題となっている竹を燃料として高効率燃焼させるボイラーでその燃焼熱を利用して組んでいる反応筒に竹粉と転炉スラグを混和して送り込み加熱、同時に組み込んだ過熱蒸気発生部からの過熱蒸気にて熱分解ガス化・水蒸気改質反応により連続的に水素を生成して燃料電池やマイクロガスタービンなどで発電する。余熱は農業用ハウス暖房等に利用する。また燃焼排気ガス中の CO を酸化触媒で CO₂ にして無害化し栽培植物に施用する。反応後の転炉スラグ及び竹灰混和物は黒大豆等の栽培土壌の改良、ミネラル補給に再利用する。

助成金額 20万円

「放射線励起可能な無機ナノ粒子の開発と医療応用」

神戸大学大学院工学研究科 応用化学専攻 教授 荻野 千秋

本研究では、がん組織への治療の一つとして確立されている「放射線治療」にナノ粒子材料を併用し、有効な治療法が確立されていない脾臓がんなどの難治性がんの飛躍的な治療率向上を目指す事である。本申請者らは、これまでに放射線励起可能な無機ナノ粒子（過酸化チタン・ナノ粒子）を見出し、特許を成立させた（日本、米国、中国で成立）。そして予備試験的に進めている動物実験による抗腫瘍効果の検証では、腫瘍組織の著しい減少（＝治療効果）も認められている。これらの技術を組み合わせ、「既存の放射線治療」と、「放射線の治療効果を増強する物質（ハイブリッドナノ粒子）」を組み合わせた治療法“放射線増感治療システム”を提案する。

助成金額 30万円

「あらゆるインフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの開発」

神戸大学人間発達環境学研究科 人間環境学専攻 准教授 江原 靖人

あらゆるインフルエンザウイルス表面は、ヘマグルチン(HA)と呼ばれるシアル酸と結合する部位を3か所有する3量体構造のタンパク質で覆われています。本技術は、3-way junction構造の核酸の頂点にシアル酸を修飾した化合物の合成方法およびその応用に関するものです。この化合物は、HAの3か所のシアル酸結合部位に同時に結合できるため、抗体に匹敵する高い親和性を有しています。ワクチン、抗体はウイルスが変異すると親和性を失う可能性があります。この化合物はヒト型、トリ型、また今後ウイルスがどのように変異しても結合することができると考えられるため、あらゆるインフルエンザウイルスを検出する診断システムへの応用を目指します。

助成金額 30万円

2. 特記事項

開催日時	概要	場所
4月26日	会計監査（内沼監事）	発明協会事務室（財団事務局）
5月9日	会計監査（竹岡監事）	阪神南県民センター
5月20日	第1回理事会	ハニー化成（株）会議室
5月30日	評議員選定委員会	技術交流館2階 セミナー室
6月23日	評議員会	技術交流館2階 セミナー室
6月30日	定期報告書類ネットにて提出	
7月1日	平成28年度 助成金申請受付開始	—
7月7日	役員変更登記手続	法務局
9月30日	平成28年度 助成金申請受付締切	—
9月30日	助成金平成27年度中間報告書提出締切	
11月25日	助成金選考委員会	技術交流館2階 セミナー室
12月7日	第2回理事会	技術交流館2階 セミナー室
1月23日	助成金贈呈の会	生田神社会館 梅の間
2月6日	野村証券と規定と運用について会長懇談	協会事務室
3月3日	第3回理事会	技術交流館2階 セミナー室
3月30日	定期報告書類ネットにて提出	

貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増減 (△)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,806,833	1,971,197	△ 164,364
流動資産合計	1,806,833	1,971,197	△ 164,364
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
縁故債	200,000,000	200,000,000	0
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
研究開発助成引当資産	6,000,000	6,000,000	0
特定資産合計	6,000,000	6,000,000	0
固定資産合計	206,000,000	206,000,000	0
資産合計	207,806,833	207,971,197	△ 164,364
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	300,000	300,000	0
流動負債合計	300,000	300,000	0
負債合計	300,000	300,000	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
出捐金	200,000,000	200,000,000	0
研究開発助成引当資産	6,000,000	6,000,000	0
指定正味財産合計	206,000,000	206,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(6,000,000)	(6,000,000)	(0)
2. 一般正味財産	1,506,833	1,671,197	△ 164,364
正味財産合計	207,506,833	207,671,197	△ 164,364
負債及び正味財産合計	207,806,833	207,971,197	△ 164,364

正味財産増減計算書

平成28年 4月 1日 から 平成29年 3月31日 まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増減 (△)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	[2,140,000]	[2,140,000]	[0]
基本財産受取利息	2,140,000	2,140,000	0
② 特定資産運用益	[12,000]	[24,289]	[△ 12,289]
特定資産受取利息	12,000	24,289	△ 12,289
③ 雑収益	[24]	[378]	[△ 354]
受取利息	24	378	△ 354
経常収益計	2,152,024	2,164,667	△ 12,643
(2) 経常費用			
① 事業費	[1,903,356]	[1,804,029]	[99,327]
開発助成金支出	1,700,000	1,600,000	100,000
委員会費支出	12,000	9,000	3,000
諸謝金支出	60,000	70,000	△ 10,000
通信運搬費支出	39,204	36,860	2,344
消耗品費支出	9,612	4,929	4,683
賃借料支出	82,540	83,240	△ 700
② 管理費	[413,032]	[418,231]	[△ 5,199]
会議費支出	78,500	77,950	550
事務委託費支出	300,000	300,000	0
消耗品費支出	25,920	27,322	△ 1,402
通信運搬費支出	5,880	9,129	△ 3,249
雑費支出	2,732	3,830	△ 1,098
経常費用計	2,316,388	2,222,260	94,128
当期経常増減額	△ 164,364	△ 57,593	△ 106,771
当期一般正味財産増減額	△ 164,364	△ 57,593	△ 106,771
一般正味財産期首残高	1,671,197	1,728,790	△ 57,593
一般正味財産期末残高	1,506,833	1,671,197	△ 164,364
II 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	206,000,000	206,000,000	0
指定正味財産期末残高	206,000,000	206,000,000	0
III 正味財産期末残高	207,506,833	207,671,197	△ 164,364

正味財産増減計算書内訳表

平成28年4月1日から平成29年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	内部取引控除	合計
	公1 (研究開発助成金事業)	小計			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,585,740	1,585,740	554,260	0	2,140,000
基本財産受取利息	1,585,740	1,585,740	554,260	0	2,140,000
特定資産運用益	12,000	12,000	0	0	12,000
特定資産受取利息	12,000	12,000	0	0	12,000
雑収益	0	0	24	0	24
受取利息	0	0	24	0	24
経常収益計	1,597,740	1,597,740	554,284	0	2,152,024
(2) 経常費用					
事業費	1,903,356	1,903,356			1,903,356
開発助成金支出	1,700,000	1,700,000			1,700,000
委員会支出	12,000	12,000			12,000
諸謝金支出	60,000	60,000			60,000
通信運搬費支出	39,204	39,204			39,204
消耗品費支出	9,612	9,612			9,612
賃借料支出	82,540	82,540			82,540
管理費			413,032	0	413,032
会議費支出			78,500	0	78,500
事務委託費支出			300,000	0	300,000
消耗品費支出			25,920	0	25,920
通信運搬費支出			5,880	0	5,880
雑支出			2,732	0	2,732
経常費用計	1,903,356	1,903,356	413,032	0	2,316,388
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 305,616	△ 305,616	141,252	0	△ 164,364
当期経常増減額	△ 305,616	△ 305,616	141,252	0	△ 164,364
他会計振替額				0	0
当期一般正味財産増減額	△ 164,364	△ 164,364	0	0	△ 164,364
一般正味財産期首残高					1,671,197
一般正味財産期末残高					1,506,833
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	206,000,000	206,000,000			206,000,000
指定正味財産期末残高	206,000,000	206,000,000	0	0	206,000,000
III 正味財産期末残高	207,506,833	207,506,833	0	0	207,506,833

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

課税売上がないため、税込にて処理

2. 会計方針の変更

該当事項はなし。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
兵庫県縁故債	200,000,000	0	0	200,000,000
特定資産				
研究開発助成引当資産	6,000,000	0	0	6,000,000
合 計	206,000,000	0	0	206,000,000

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
兵庫県縁故債	200,000,000	200,000,000	0	0
特定資産				
研究開発助成引当資産				
三井住友銀行 兵庫支店普通	6,000,000	6,000,000	0	0
合 計	206,000,000	206,000,000	0	0

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲は、現金預金、未払金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	1,971,197	1,806,833
未払金	300,000	300,000
次期繰越収支差額	1,671,197	1,506,833

財 産 目 録

平成29年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金	手元保管	運転資金として	11,956
	現金預金	普通預金 三井住友銀行兵庫支店	運転資金として	1,794,877
流動資産合計				1,806,833
(固定資産)	基本財産	縁故債	兵庫県縁故債	公益目的保有財産であり、運用益の74.1%を公益目的事業の財源として、25.9%を管理費の財源として使用している
特定資産	研究開発助成引当資産	普通預金 三井住友銀行兵庫支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している	6,000,000
固定資産合計				206,000,000
資産合計				207,806,833
(流動負債)	未払金	(一社)兵庫県発明協会に対する未払額	事務委託費の未払い分	300,000
流動負債合計				300,000
負債合計				300,000
正味財産				207,506,833

収 支 計 算 書 (予算対比)

平成28年 4月 1日 から 平成29年 3月31日 まで

(単位 円)

科 目	予算額(12月7日補正)	決算額	差異 (△)
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	[2,140,000]	[2,140,000]	[0]
基本財産利息収入	2,140,000	2,140,000	0
② 特定資産運用収入	[12,000]	[12,000]	[0]
特定資産利息収入	12,000	12,000	0
③ 雑収入	[0]	[24]	[△ 24]
利息収入	0	24	△ 24
事業活動収入計	2,152,000	2,152,024	△ 24
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	[1,897,000]	[1,903,356]	[△ 6,356]
開発助成金支出	1,700,000	1,700,000	0
委員会費支出	12,000	12,000	0
諸謝金支出	60,000	60,000	0
通信運搬費支出	32,000	39,204	△ 7,204
消耗品費支出	9,000	9,612	△ 612
賃借料支出	84,000	82,540	1,460
② 管理費支出	[455,000]	[413,032]	[41,968]
会議費支出	100,000	78,500	21,500
事務委託費支出	300,000	300,000	0
消耗品費支出	33,000	25,920	7,080
通信運搬費支出	12,000	5,880	6,120
雑費支出	10,000	2,732	7,268
事業活動支出計	2,352,000	2,316,388	35,612
事業活動収支差額	△ 200,000	△ 164,364	△ 35,636
II 投資活動収支の部			
投資活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 200,000	△ 164,364	△ 35,636
前期繰越収支差額	1,671,197	1,728,790	△ 57,593
次期繰越収支差額	1,471,197	1,671,197	△ 200,000

監査報告書

平成29年4月13日

公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団
会長 神門 登 殿

監事 内沼英城 

私は、公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録並びに収支計算書の正確性を検討いたしました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 財務諸表及び財産目録並びに収支計算書は、法人の平成28年度末日現在の財政状態並びに同年事業年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告は、法令又は定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成29年 4月 27日

公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団
会長 神門 登 殿

監事 宮口 美穂 

私は、公益財団法人 兵庫県科学技術振興財団の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの平成28年度の事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録並びに収支計算書の正確性を検討いたしました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 財務諸表及び財産目録並びに収支計算書は、法人の平成28年度末日現在の財政状態並びに同年事業年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告は、法令又は定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上